

平成 31 年度（令和元年）第 1 回
大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和元年 6 月 25 日（火）17 時 30 分～19 時 00 分

出席者 協議会委員 山崎 彰・西澤 信善・宮坂 政宏・尾崎 理人
岩元 宏司・佐谷 明

校長 平野 裕一

事務局 武内 由佳・松本 恵美子・上林 卓也・安福 一貴

次第

1. 校長挨拶
2. 会長挨拶
3. 協議・報告

(1) 本年度の学校経営計画及び学校評価についてについて

校長より

- ・ 3 本柱①進路を切り拓く学力の育成
 - ・・・進学実績においては A A A の評価を頂戴している。
- ・ 3 本柱②国際舞台で活躍する人材育成
 - ・・・志学でのボランティア活動や人権の大切さ、英語でのコミュニケーション（4 技能を高める）などにおいて順調に進んでいる。
 - SSH 事業については、第 3 期目申請中である。
 - SGH 事業については、後継事業となる WWL（北野高校を拠点校）事業がスタートした。
- ・ 3 本柱③教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取組み
 - ・・・職員研修（7/19 実施予定）をおこない教員の資質向上に努める。
 - 勤務時間外における留守番電話の対応、会議でのペーパーレス化などをはかり「働き方改革」に向けた取組みを進めている。

委員より

- ・ ルーブリック評価に平均値は意味がない。到達度を目標にするべき。
- ・ 働き方改革と言えども、生徒がいれば対応に追われる。
- ・ 部活動についてはどうか？

校長より

- ・ 部活動は、平日は週に 1 日ノークラブデーを設けるよう年間計画の中で、弾力的に対応をしている。

委員より

- ・ 早く退勤できるようになったのか？

校長より

- ・なかなか難しい。

委員より

- ・時短をどうするか？子どもを育てるためには時間が必要。
役割分担や事務作業のICT化などを考えるべき。
時間は人によって異なるのでは？意欲を持ってポイントをついて取り組める人が増えるのか？

校長より

- ・土日の勤務は最小限での依頼を心掛けている（生徒に関わる部分は難しいが、事務作業は簡略化）。実践していく中で、今後検討する必要がある。

委員より

- ・大阪府の学校経営計画には、マネジメントの計画が盛り込みにくい形式になっているように思う。

（2）平成30年度卒業生 進学状況について

校長より

- ・国公立大学の合格者数が増加、私立大学への進学者数が減った。
（2年前より、国公立大学進学者＞私立大学進学者）
- ・大学において、教員1人当たりの生徒数が国公立大学では少ないなど、教育環境について話をする機会を設けている。
- ・今年の3年生は、世間的には弱気になると言われているが、4月の進路希望調査の結果では昨年度と同程度の進路希望を持っている。

委員より

- ・学部の選択や将来を見据えた指導はどうなっているか？

校長より

- ・何をやりたいかという気持ちは弱く、憧れの大学（京都、大阪、神戸）という観点で大学を選んでいる傾向がある。その一方で、「何をしたいか」を考えさせる指導をおこなうことにより、地方の国公立大学への進学者が増加している。

委員より

- ・社会でフレキシブルに動くためには、高校時代に幅広い勉強が大切。
文系といえども、データ分析などの理系的素養が必要。（幅広く学ばせる）

校長より

- ・共通テストにおける変化も、その面が現れている。

（3）新学習指導要領に向けての校内の取り組み

校長より

- ・今年～来年に向けて校内で枠組みを考えていく。

- ・現在、7月19日の新学習指導要領に向けての校内研修に向け、各教科で会議を開き、どのような変化があるのかを共有しているところ。

委員より

- ・高校入試での傾向も大学入試での変化を受けている。
- ・中学校では、生徒間での教え合いの時間を取り入れたり、研究授業を実施している。
- ・アクティブラーニングは中学での実践が生かせるのでは？

校長より

- ・本校でも進めている。
- ・本校の生徒もグループワークに慣れている生徒が増えてきた。
- ・今後、グループワークの効果的活用法などを共有したい。また普通教室へのプロジェクター（電子黒板）の設置等教室環境の充実を考えている。

委員より

- ・全国学力調査の結果、大学でも学生調査を実施（グループワークがあるのかなどの問い）している。私立高校よりも公立高校での経験が多い。
- ・高校においても、学習状況調査を実施することになるのでは？

校長より

- ・現在、スタディサポートの中で学習状況リサーチを行っている。

委員より

- ・学習状況調査とスタディサポートの2つを合わせて考えていくとよい。

校長より

- ・模試・スタディサポート・授業アンケートの結果をもとに教科会議を開いている。

委員より

- ・ICTの活用やグループ学習は得意・不得意な人がいるのでは？

校長より

- ・得意な教員や経験の多い教員から情報を得て互いに協力しながら実践している。

委員より

- ・豊中の中学校には1教室に1台のタブレットが導入されている。生徒はそういった環境に慣れている。
- ・生徒全員にタブレットを持たせている学校も多い。

校長より

- ・タブレットもいいが、近年キーボード入力が苦手な生徒が多い。

委員より

- ・大学では社会に出て困ることになるので、キーボードを使わせている。その結果、紙での提出は少なくなってきた。そのためWi-Fi環境を整えている。
- ・変化について行けるように準備が必要であろう。

- ・選挙権について、選挙の際の正しい判断をどう指導するのか？

校長より

- ・「現代社会」の中で基礎知識を学ぶが、「公共」はそれに道徳的観点を加えたもの。
- ・授業の中で、新聞記事についての1分間スピーチ、模擬投票などを実施している。

(4) 教職員の構成について

校長より

- ・40代教員が少ないため、30代の教員の役割が大切な時代になっている。30代が改革の中心となり、50代が経験で支える。

(5) 教科書の選定について

教頭より

観点に基づいて各教科で決定していく。

現在は「各教科で十分な調査研究を行う」段階である。

委員より

- ・生徒にあったものをしっかり選んでもらいたい。

(6) その他（全体を通して）

委員より

- ・満足度で測る調査は曖昧では？何を明らかにしたいのか？
具体的で生徒たちの学力に直結した方がよいのでは？
満足度は期待値が低ければ高くなるので客観的ではない。
何ができるようになったのかなど、もう少し工夫を。